

授業づくりのポイント

～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

子供の学力を伸ばした先生に共通する授業（目指したい授業像）

1. 子供たちが**主役**となり、**挑戦**したことを教師が認め、励ましのある授業
2. 子供たちが**協働的な学び**を通して学びを深めている授業

具体的場面

ABC3つの領域からの
アプローチ

A

子供と教師の関係（学級経営、授業規律など）

- ①子供たちの**発言**（つぶやきも含む）を**取り上げ、考えを引き出す**。
- ②ICTの活用や机間指導等を通して、子供の**状況を把握し、取組を見届ける**。
- ③個別の**声かけ**や**称賛**をしている。



そのために…

- ①：発言した子供と教師のやり取りに終始せず、**全員に思考を促す発問**をする。
- ②：子供たちが「できたこと」を実感できるような、**フィードバック**の時間の設定をする。
- ③：個別最適な学びや自力解決などを通して一人一人の子供の伸びや変容を把握する。

B

子供同士の関係（学級内の雰囲気）

- ①**子供同士の学び合い**の時間がある。
- ②グループ内全員が互いの意見を伝え合っている。
- ③間違えても受容される学級の雰囲気である。



そのために…

- ①&②：子供たちが**自分の考えをもつ**ことができるような課題設定をする。
- ①&②：教師が「**5W1H**」を意識し、明確に伝わるような指示や発問をする。
- ③：子供が頑張っても**挑戦したことを認める**姿勢を教師が示す。

C

指導方法の工夫

- ①活動の途中でも必要があれば、修正や補足、確認、焦点化などを行っている。
- ②学んだことを**アウトプット**する機会を設けている。



そのために…

- ①：教師が1時間の授業の中で**学習のゴール、目指すべき子供の姿**等を明確にしておく。
- ②：**多様な考え方（解き方）**が生まれるような課題を設定する。
- ②：子供たちが**協働的に解決したくなる**ような課題を設定する。
- ②：既習事項の確認、復習をしてから本時の課題に取り組む。

【参考】令和2年度
指導の重点・主な施策
3, 4ページ



【参考】令和3年度
指導の重点・主な施策
3, 4ページ



ABCの領域は、互いに関連していることから、全ての領域からのアプローチが大切です。